

景気の回復感を辛抱強く待つより、 業績拡大に伴なう果実を得るべく行動を

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

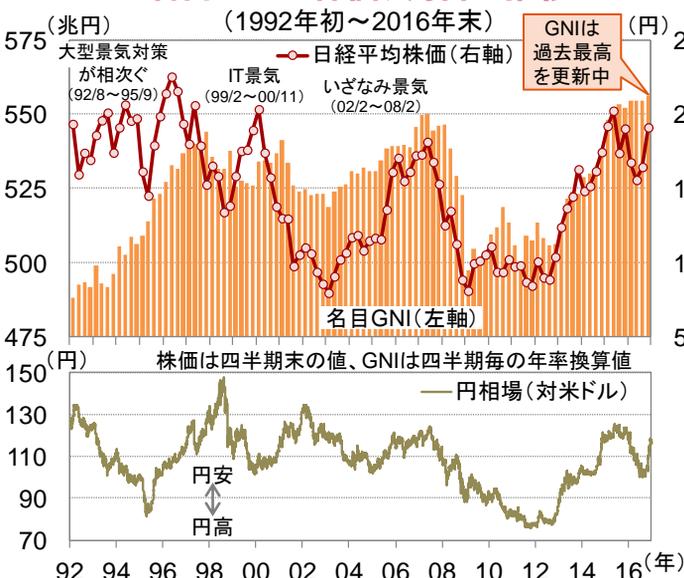
nikko am
fund academy

日本の経済規模を示すGNI(国民総所得)がリーマン・ショック前の2007年4-6月期の水準を上回り、過去最高を更新した2015年4-6月期に、日経平均株価は2万868円まで上昇し、IT景気時の2000年につけた高値を約15年ぶりに上回りました。続く2016年には、GNIは4四半期連続で過去最高を更新しましたが、夏にかけて為替が大きく円高に振れたことなどから、日経平均株価は下振れを余儀なくされました。しかし、11月の米大統領選挙でトランプ氏が当選し、為替が円安に向かうと日経平均株価は反発し、足元では1万9,000円台での推移となっています。

GNIは、GDP(国内総生産)と同様、一国の経済規模を示す指標ですが、GDPが「日本国内」で生み出されたモノやサービスの付加価値の合計であるのに対し、GNIは、「日本人や日本企業」の儲けを表し、GDPから外国人や外国企業が稼得した所得を除き、日本人や日本企業が海外で稼得した所得を加えたものであるという点が大きな違いです。日経平均株価と日本のGNIは、90年代後半以降、かなり似通った動きを示しています。例えば、リーマン・ショック発生の約半年前まで続いた、「いざなぎ景気」と呼ばれた時期には、景気拡大期間こそ戦後最長の73ヵ月に及んだものの、回復の実感に乏しいと言われましたが、GNIは急拡大し、日経平均株価がITバブル崩壊後の安値から大幅な反発を遂げました。足元でも、景気回復を実感できないとの声は強いものの、前述のとおりGNIは過去最高を更新中で、株価も堅調となっています。

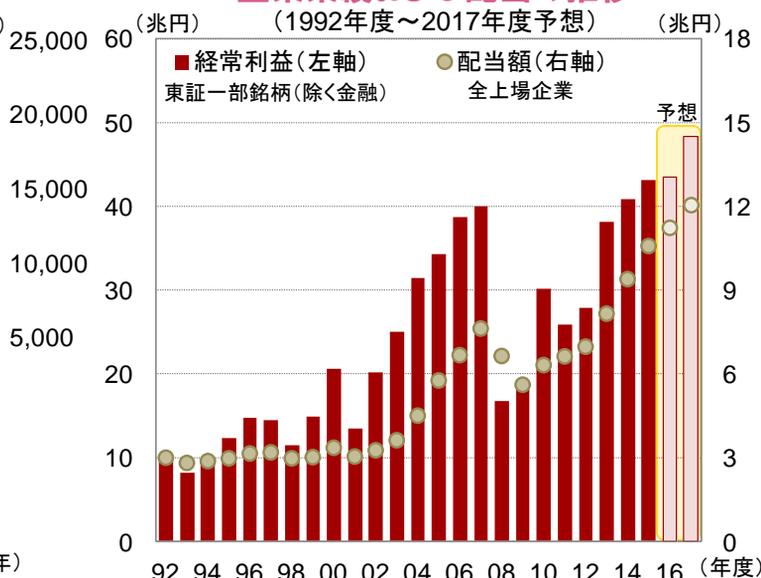
GNIと同様、企業の業績や配当も過去最高水準で推移しています。業績面では、為替が一時、大きく円高に振れた影響などから、今期(2016年度)はほぼ横ばいとみられ、3年連続の最高益更新は微妙ながら、来期(2017年度)は1割程度の増益となり、最高益を更新する見通しです。また、配当は来期にかけて5年連続で過去最高を更新する見込みです。一方、国内景気は、拡大継続が見込まれるものの、ペースは極めて緩やかで、景気の回復感を感じることは今後も難しいかもしれません。それだけに、回復感を待って、投資を見送るより、GNIや企業業績の拡大に伴なう果実を得るべく、株式投資を検討してみてもはどうでしょうか。

名目GNIと株価、為替の推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

企業業績および配当の推移



※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。